

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)伏見区M工場新築計画	階数	地上3F
建設地	京都市京都市伏見区久我西出町8-18, 8-19	構造	S造
用途地域	工業専用地域, 防火地域	平均居住人員	60 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2018年9月7日
敷地面積	2,832.58 m ²	作成者	豊川 秀夫
建築面積	1,540.00 m ²	確認日	2018年9月10日
延床面積	2,966.53 m ²	確認者	湯浅 勝也

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 0.9 ★★★★☆	★☆☆☆☆	★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B: ★★★ C: ★☆	★★★★★☆ 30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
3.0	1.5	BEE=1.0	標準計算	Q1 室内環境	LR3 敷地外環境
100	50	0.5	①参照値	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
0	50	100	②建築物の取組み	Q2 のスコア = 2.5	Q3 のスコア = 1.8
50	0	50	③上記+②以外の	Q1 のスコア = 3.0	Q3 室外環境(敷地内)
0	50	100	④上記+	Q2 のスコア = 3.0	Q3 のスコア = 1.8
39	39	92	(kg-CO ₂ /年・m ²)	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
0	50	100	このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したもの	Q1 室内環境	Q2 サービス性能
音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境	Q1 のスコア = 3.0	Q2 のスコア = 3.0
2.6	3.0	3.0	3.4	Q1 のスコア = 3.0	Q2 のスコア = 3.0
N.A.				Q1 のスコア = 3.0	Q2 のスコア = 3.0
Q4 中項目の評価(バーチャート)	Q 環境品質	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)	Q3 のスコア = 1.8
LR 環境負荷低減性	LR1 エネルギー	LR1 のスコア = 3.8	LR2 資源・マテリアル	LR2 のスコア = 3.0	LR3 敷地外環境
LR のスコア = 3.4	LR1 のスコア = 3.8	LR1 のスコア = 3.8	LR2 のスコア = 3.0	LR2 のスコア = 3.0	LR3 のスコア = 3.2
Q3 設計上の配慮事項	その他	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)	Q3 のスコア = 1.8
総合		内装の仕上げにはF★★★★☆を採用し、室内環境に配慮した	適切に窓を設置した事務室の天井高3.0mを確保し、リフレッシュスペースを設置する等、執務者の心理性・快適性に配慮した	まちなみ・景観への配慮を行った	
適切に窓を設置した事務室の天井高3.0mを確保し、リフレッシュスペースを設置する等、執務者の心理性・快適性に配慮した					
内装仕上げ材にはF★★★★☆を採用し、室内環境に配慮した					
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)			
内装の仕上げにはF★★★★☆を採用し、高い自然換気性能により室内環境に配慮した	適切に窓を設置した事務室の天井高3.0mを確保し、リフレッシュスペースを設置する等、執務者の心理性・快適性に配慮した	まちなみ・景観への配慮を行った			
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境			
太陽光発電やLED照明を採用し、設備システムの高効率化に努めた	発泡剤を用いた断熱材等を使用せず、汚染物質含有材料の使用回避に配慮した	屋外広告物はなく、光害の抑制に努めた			

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される